



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2023年
10月27日
発行

第195回 「パレスチナ・イスラエル紛争を考える」

～勝者は金～

初めに

去る10月7日、パレスチナ自治区ガザのイスラム組織ハマスの武装勢力がイスラエルに侵入・奇襲攻撃を行い、大規模な紛争が始まりました。このハマスの攻撃については虚を突かれたと感じた方も多かったかもしれません。最近、中東ではアフガン戦争が終結し、また、昨年カタールで行われたサッカー・ワールドカップは大きな問題もなく成功に終わっており、どちらかと言えば融和モードにあったのではないかと、自分は考えていました。また、イランでは先月、イスラム革命後初の女性閣僚が誕生するといった出来事もありました。これも、湾岸地域に融和モードを醸し出す効果があったのではないのでしょうか。

自分は、この時期の湾岸地域を「ペルシャ湾岸式アラブの春」とでも言えるものと想像していました。しかし、その見方は甘かったようです。なぜならば、その後ハマスの攻撃によって紛争が勃発し、緊張が高まったからです。仲介役が期待される米国のバイデン大統領も、足元の下院の議長が長く空席のままであったことなど重要な問題を抱え、この中東情勢に集中できなかったことも影響したと思います。国連も有力国が自国の利益を優先させようとするばかりで、動きが取れない状況が続いています。

勝者は誰？

金融市場から見て、この紛争の勝者と言えるのは、意外に思われるかもしれませんが、ロシアだと思います。ロシアは産油国であり、中東に緊張が高まれば原油価格は上昇するからです。また、国際世論の関心をウクライナ戦争からそらし、米国の軍事支援もウクライナと中東に分散されることになります。

日本に注目する海外の防衛産業

世界の防衛産業大手がアジア事業の重心を日本に移します。英BAEシステムズは年内にアジアの統括機能を日本へ移転し、米ロッキード・マーチンも同様の対応を終えました。米L3ハリス・テクノロジーズや仏タレスも日本法人を設立、日本企業との提携を強化するとしています。背景には、日本が23～27年度の防衛費総額をこれまでの1.6倍の43兆円に増やすことがあります。海外の防衛産業と提携する三菱重工や三菱電機などにもビジネスチャンスがありそうです。

勝者は金

パレスチナ・イスラエル紛争は依然として終わりが見えない状況です。この不透明感が続く中、金価格は最高値を更新し続けていますが、まだ上昇する余地がありそうです。ロシアと並んで、もう一つの勝者は金と言えそうです。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。